

8. 河道特性

那珂川の河道特性について上流部、中流部、下流部に分けて説明する。

また、那珂川直轄管理区間の現況河道縦断面図を図 8-1 に示す。

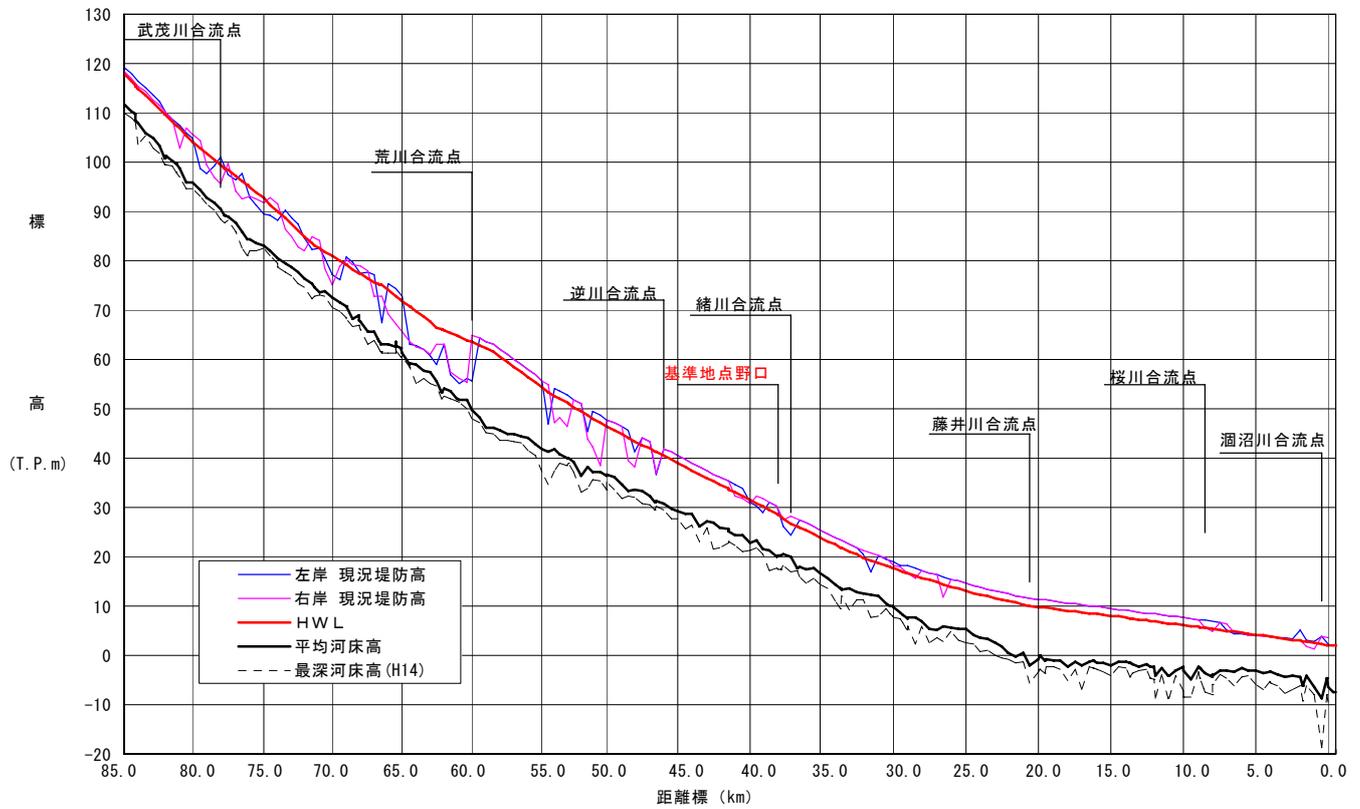


図 8-1 那珂川現況河道縦断面図（直轄管理区間）

(1) 上流部（源流～箒川合流点）

上流区間は、水源からV字溪谷の急流を流れる源流区間と那須野ヶ原扇状地の中を浸食し流下する区間の2つに分けられる。

① 源流区間

那須岳を水源とし、V字溪谷の中を流れる急流の溪谷区間で、日光国立公園に指定されている区間であり、溪谷を流下していることから、河川周辺の土地利用はほとんど見られない。

河床勾配は1/80以上で、河床材料は代表粒径30cmの巨石で構成される。



源流部の河道の様子（那須塩原市阿久土）



源流部にある支川沢名川の様子

② 那須野ヶ原扇状地区間

那須野ヶ原の火山性台地を浸食した幅広い掘り込み河道を流れる区間である。両岸には斜面林が見られ、台地の上には農地が点在する。一部河川敷の広い区間には公園やキャンプ場が見られる。

河床勾配は1/100～1/300で、河床材料は代表粒径5～15cmの中・大石で構成される。



昭明橋付近より上流を望む



那須疏水公園周辺の河道

(2) 中流部（箒川合流点付近～城里町上泉地先）

中流部は、八溝山地の横を平行に流れる区間、八溝山地を浸食してできた溪谷の中を流れる区間、瓜連丘陵や友部丘陵等の台地・丘陵地の中を流れる区間の3つに分けられる。

① 山間区間【箒川合流点（85.5k）～荒川合流点（60.5k）】

八溝山地に沿って盆地の中を流下する区間であり、川の中は早瀬と淵が連続している。川沿いの低地は主に水田として利用されており、川から離れた台地上の土地などが住宅地や幹線道路として利用されている。河道は部分的に築堤されている。

川の周辺は八溝県立自然公園として指定されるなど自然豊かな場所である。

川幅は150～600m、河床勾配は1/330～440で、河床材料は代表粒径29～30mmの砂・礫で構成される。



85.0kmの河道の状況（箒川合流点付近）



63.5km付近の河道の様子

② 狭窄区間【荒川合流点（60.5k）～新那珂川橋（46.5k）】

八溝山地を横断し、崖地の深い谷の中を流れる区間であり、崖地の中を流下する区間であることから土地利用は少ないが、川にアクセスが容易な場所では観光やながを設置され、アユ釣りが盛んである。川の周辺是那珂川県立自然公園に指定されるなど、自然豊かな場所である。

川幅は120～440mと狭く、河床勾配は1/770で、河床材料は代表粒径25mmの砂・礫で構成される。



55.0km付近の河道の状況



50.0km付近の河道の状況

③ 台地・丘陵地区間【新那珂川橋（46.5k）～城里町上泉地先（27.5k）】

台地・丘陵地に挟まれた区間を流下し、川幅は広い。兩岸には河岸段丘と斜面林、広い河原が特徴的な景観を持ち、川の中は砂州、瀬と淵による変化に富んでいる。沿川は常陸大宮市や城里町であるが、この市街地や幹線道路は台地や丘陵地の上にある。

川幅は 200～650m、河床勾配は 1/770 で、河床材料は代表粒径 25mm の砂・礫で構成される。



37.0km 付近の河道の状況（御前山周辺）



33.0 km 付近の河道の状況

(3) 下流部（城里町上泉地先～河口）

那珂台地、東茨城台地を削ってできた河岸段丘の間を流れ、台地の間は沖積平野となっており、水戸市をはじめとする市街地が発達している。

① 自然堤防区間【城里町上泉地先（27.5k）～河口（0.0k）】

低地の自然堤防が発達している区間であり、水戸市の中心地で大きく蛇行し、河口から桜川合流点までは緩やかに蛇行する。

川幅は 200～600m、河床勾配は 1/1,000～7,000 で、河床材料は代表粒径 0.40～0.25mm の細礫、砂、シルトで構成される。



8.0km 付近の河道の状況



5.0 km 付近の河道の状況